

第 21 回 静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

- 1 開催日時 平成 30 年 7 月 18 日（水） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
- 2 開催場所 静岡市清水産業・情報プラザ
- 3 出席者 **【委員】**
山内委員、鳥羽委員、井野委員、小澤委員、望月（有）委員、
山下委員、杉山委員、上妻委員、松岡委員
【事務局】
池田経済局長、青嶋参与兼産業振興課長、山本地場産業担当課長兼係長、
桐野工業振興係長、頭師主幹兼副主幹、松田主査、寺田主任主事
（産業政策課）竹澤主任主事
- 4 傍聴者 一般傍聴者 なし 新聞記者 なし
- 5 開 会 （事務局：青嶋参与兼産業振興課長）
定刻となりましたので、第 21 回静岡市ものづくり産業振興審議会を開催いたします。
さて、お手元の次第に従いまして、会議を進めていきたいと思っております。まず、会議を始める前の確認事項といたしまして、3 点お知らせいたします。本日は、前田委員、牧野委員、望月（磨）委員から、所用のため欠席するとのことご連絡をいただいておりますが、その他の皆様にはご出席をいただいておりますので、静岡市ものづくり産業振興条例施行規則第 6 条第 2 項、「審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない」との規定により、本日の審議会が成立していることをご報告いたします。2 点目としては、会議の「公開」であります。静岡市では、「附属機関等の設置及び運営に関する指針」に基づきまして、ものづくり審議会を含めた附属機関の会議は、原則公開となっております。本日の会議については、非公開事項となるものを含んでおりませんので、公開としたいと思っておりますが、皆様、よろしいでしょうか。

【各委員】了承

（事務局：青嶋参与兼産業振興課長）

それでは、公開といたします。

また、審議の経過等によりまして、非公開とすべき事項が生じた場合には、その都度、その旨を皆様にご決定いただくこととなりますので、よろしくお願いたします。

3 点目としては、「会議録」についても公開となりますので、事務局で会議録を作成し、

会長と他委員1名のご署名をいただいて、公開の手続きを行いたいと思います。会長以外の署名人としては、静岡県商工会連合会の望月有希子委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか？

【望月（有）委員】了承

（事務局：青嶋参与兼産業振興課長）

ありがとうございます。

次に「会長あいさつ」といたしまして、山内会長様からご挨拶賜りたいと思います。

山内会長、お願いします。

【会長あいさつ】山内会長

皆様大変暑い中、そしてお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本日は、事務局から「第3次静岡市ものづくり産業振興基本計画（以下、「第3次基本計画」という。）の方向性（案）」について説明があるということですので、皆様には忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

（事務局：青嶋参与兼産業振興課長）

ありがとうございました。

続きまして、静岡市経済局長の池田からご挨拶申し上げます。池田経済局長、よろしくお願いします。

【池田経済局長あいさつ】池田経済局長

本日は大変暑い中、またお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

皆様には昨年の11月、条例の規定に基づき、第3次基本計画の策定に関して諮問をさせていただきました。

本日は、委員の皆様からのご意見や企業・団体等へのヒアリング結果に加え、先月閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2018（通称「骨太方針2018）」、「未来投資戦略2018」や、国の「Society5.0」の実現に向けた方針等を踏まえた上で、第3次基本計画の方向性（案）をお示しさせていただきます。皆様の専門的なお立場から、ご忌憚のないご意見をお伺いしたいと存じますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。

（事務局：青嶋参与兼産業振興課長）

ありがとうございました。

それでは、議事に入る前に、本年度の人事異動により、事務局のメンバーが変更となりましたので、簡単にご挨拶させていただきます。

(事務局：池田経済局長)

改めまして、4月から経済局長になりました池田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：青嶋参与兼産業振興課長)

続きまして、産業振興課長の青嶋です。旧静岡市と旧清水市が合併する前に、商工課という部署に所属しておりましたが、その後は経済関連の部署からは離れておりました。平成28年度に商業労政課へ異動となったことで、経済局へ戻ってまいりましたが、まだまだ勉強不足な部分も多々ありますので、色々ご指導いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局：桐野工業振興係長)

4月から産業振興課に配属になりました桐野と申します。10年程前に経済局におりまして、10年ぶりに戻って参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：山本地場産業担当課長兼係長)

地場産業担当課長兼係長の山本です。私はこの担当になりまして6年になります。今回、伝統工芸技術の保存・継承ということで、ご提案をさせていただきたいと思います。職人の高齢化等、非常に厳しい状況が続きますが、皆様の意見を取り入れて改善していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(その後、事務局産業振興課職員も同様に自己紹介)

(事務局：青嶋参与兼産業振興課長)

本年度の事務局は以上のメンバーとなりますので、1年間どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に移りたいと思います。今回の議事進行については、ものづくり産業振興条例施行規定第5条第3項、「会長は、審議会の会議の議長となる」との規定によりまして、山内会長に進行をお願いしたいと思います。山内会長、よろしくお願いいたします。

【山内会長】

それでは、お手元の次第の「4 議事（1）第3次基本計画の方向性（案）」について、事務局より説明いただき、その後で皆様で議論したいと思っております。

事務局より説明をお願いします。

(事務局：桐野工業振興係長)

本日の審議会につきましては、第3次基本計画の方向性（案）を事務局で検討したものを

お示しさせていただき、それに対して、議員の皆様から意見を伺う場にしたいと考えていますので、どうぞ幅広いご意見をお聞かせいただくようお願いいたします。

「資料1」をご覧ください。第3次ものづくり産業振興基本計画（案）です。基本計画の方向性を示すにあたり、まず、我が国経済の現状、国・県・市の経済政策に加え、これまでの当審議会でのご意見、企業等へのヒアリングなどを踏まえた事務局案を提案させていただき、最後に計画確定までのスケジュール案について説明をさせていただきます。

一番上の「1 日本経済の現状と課題」は、内閣府「経済財政運営と改革の基本方針 2018」を参考にしています。我が国の経済の状況は、5年半に及ぶアベノミクスの推進により、景気回復は緩やかではあるが、長期間にわたって継続しており、その期間はいざなぎ景気を超え、戦後2番目といわれています。名目GDPから物価変動の影響を除いた実質GDPは、過去最大規模に拡大しています。また、企業収益は過去最高を記録したほか、設備投資はリーマンショック前の水準を超えて拡大し、製造業・非製造業ともに、増加しています。

2ページをお願いします。有効求人倍率は、1970年代前半以来44年ぶりの高さとなり、労働参加率は女性や高齢者を中心に上昇しており、一方で企業の人手不足はバブル期以来の水準にまで強まっています。

人手不足感の中堅・中小企業、小規模事業者において特に高まっており、少子高齢化の中、持続的な経済成長を実現させるために、質・量両面での人材確保と、生産性の向上により、経済のサプライサイドつまり、生産者側を強化していくことが課題とされています。

次に、3ページの「2 国の産業経済支援策」です。6月に閣議決定された内閣府のいわゆる「骨太方針 2018」では、少子高齢化の克服による持続的な成長経路の実現のため4つの重点的な取組を掲げています。「参考資料1」をご参照ください。

重点的な取組の1つ目は、「①人づくり革命の実現と拡大」で、人生100年時代を見据え、誰もがいくつになっても活躍することができる社会を構築するため、幼児や高等教育の無償化、リカレント教育の拡充、高齢者雇用の拡大など多様な人材の活躍を推進することです。

「②生産性革命の実現と拡大」では、過去最高の企業収益を設備投資などに繋げるとともに、AI、IoT、ロボットなど、第4次産業革命による「Society5.0」の実現を進めることです。

次に「③働き方改革の推進」では、誰もが生きがいを感じて、いくつになってもその能力を思う存分発揮できる会社を実現するため、長時間労働の是正、同一労働同一賃金の実現、最低賃金の引上げ等を目指すことです。

最後に「④新たな外国人の受け入れ」では、中小企業や小規模事業者をはじめとした現下の深刻な人手不足を踏まえ、専門的・技術的な外国人材の受け入れを進めることです。

「資料1」に戻って、(2)内閣府「未来投資戦略 2018」です。「参考資料2 重点分野とフラッグシッププロジェクト」をご覧ください。「未来投資戦略 2018」においては、「Society5.0」に向けて、いくつかの重点分野とフラッグシッププロジェクト（いわゆる旗艦プロジェクト）を掲げています。

1番目は、無人自動運転によるサービスの実現など「次世代モビリティシステムの構

築」。2番目は、個人の検診データや技術革新を活用した、患者本位の新しい健康・医療・介護の「次世代ヘルスケアシステムの構築」。3番目は、デジタル技術を活用したエネルギー制御や水素利用などの技術開発、次世代自動車の普及など「エネルギー転換・脱炭素化に向けたイノベーション」。最後に、IT・ロボット導入に対する支援など「中小・小規模事業者の生産性革命の更なる強化」。この4つを重点として掲げています。

次に「資料1」の(3)経済産業省「平成30年度 経済産業政策の重点」です。こちらに掲げる5つの柱は、「参考資料3」のとおり、「Connected Industries を通じた Society5.0 の実現」、「対外経済政策の展開」、「産業安全保障の抜本強化、強い産業基盤の構築」、「中小企業等による地域未来投資の加速化」、「環境・エネルギー制約の克服と投資拡大」です。

再び「資料1」の3ページ「3 県の産業経済政策」をご覧ください。県では今年度から4年間の「静岡県経済産業ビジョン 2018～2021」を策定しています。これにつきましては、「参考資料4」をご覧ください。

人口減少・少子高齢化の進行による人手不足の顕在化、Iot や AI、ロボット技術などの進展、EV など次世代自動車へのシフト、エネルギー環境の変化など産業構造の大きな転換に対応するため、目指す県の姿を「人」と「富」の創出により、経済を持続的に発展させ、県民の豊かな暮らしを実現する「美しいふじのくに」とし、それを実現するため、「参考資料4」裏面のとおりに「産業人材の確保・育成」など6つの戦略を定めています。

「資料1」の4ページをお願いします。「4 市の産業経済政策」として、第3次静岡市総合計画を掲載しています。「参考資料5」抜粋資料をご覧ください。これらの基本理念・重点政策については、おおむね変更がないと聞いておりますが、この計画に係る分野としては、商工・物流分野に関連する重点政策として、「①時代を担う本市を代表する産業を生み出す。②世界・全国に挑戦する中小企業の振興を図る。③陸・海・空の社会基盤を活かしたロジスティクス産業の拡大を推進。④次世代を担う優れた人材の育成と多様な人材が活躍する雇用の場の創出を図る。」が掲げられており、これらの政策の進捗を見て、当計画についての取組を進めていきたいと考えています。

続きまして、(2)「第2次静岡市産業振興プラン」です。この計画は、本市産業振興の基本方針を定めた、総合計画と同様、2015年～2022年までの8か年計画で、来年からの4年間の後期計画を策定中で、この後期計画の策定に向けた考え方として、「市内、全産業を活性化させる事業支援スキームを充実させ、市内の事業者が売上高を増加し、雇用を維持する仕組みを整える」を掲げています。

「参考資料6 第2次静岡市産業振興プラン・概要版リーフレット」をご覧ください。産業振興の3つの方向ですが、まず、市が選定した6つの戦略産業である「海洋・エネルギー産業、清水港・ロジスティクス産業、食品・ヘルスケア産業、観光・ブランド産業、文化・クリエイティブ産業」に行政の経営資源を集中投下し、市内総生産額を増加させること。次に、市と外部専門機関が連携する「事業支援スキーム」を充実させ、短期間でプロジェクトの成果を結実できるよう後押しすること。3番目に、市内事業所の「人材の確保・育成」を支援する

ため、事業所へ採用活動を助言したり、労働者にスキルの習得機会を提供することです。

これら市の計画と、ものづくり産業振興基本計画との関連を、「資料2」にお示ししました。前回会議で、第3次計画においても、下図の左側に掲載した第2次計画の5つの方針は、おおむね継続していきましょうというご意見と、右側の第3次基本計画作成検討に当たっての4つの視点、AI・IoTの活用・支援やOB人材の活動による支援等を盛り込むことについてご意見をいただいたところです。

「資料1」、5ページの5は、前回の審議会で委員の皆様にご提案をいただいた視点です。「視点① 人材関連」では、「ま・あ・る」などを活かしながら時代を担う子供たちが、ものづくり産業に貢献できるよう、また、就労環境整備など女性の就労支援も含め、「次代を担う多様な人材の育成」の方向を幅広くしたいとのご意見。それから「視点②」では、AIやIoTの検討も必要であるが、単純・反復作業を自動化することにより生産性向上などを図るため、RPA導入の支援が必要ではないかとのご意見。「視点③」として、トライアル発注制度の検討など若者や新規創業者への支援についてのご意見をいただいています。

次に「6 本市の産業構造」です。こちらは工業統計からの引用です。ご覧のとおり、過去3年とも製造品出荷額の1位・2位は、電気機械器具製造業・食料品製造業となっており、これら2つの製造業が主要製造業であると考えており、安定的な伸びを見せています。静岡市の製造品出荷額は県内1位という報道がありましたが、その報道は平成28年度の数字で、産業分類別の数値がまだ発表されていませんので、今回は掲載を見合わせています。

次に6ページの「7 企業・団体等へのヒアリング結果」です。

製造業については、昨年度から今年度にかけて、86社に対して今後必要とする支援についてヒアリングを実施しました。その結果、業種ごとによる特徴的なご意見はありませんでした。結果を4つの項目に分類させていただきました。1つ目は、ITや営業などのノウハウや専門的技術のある人材確保やそのための経営者のスキル向上といった「人材確保」に関するご意見。2つ目は、管理者等の育成や技術習得・新入社員育成のための支援に対するご意見。3つ目は、ITやIoT活用、ネット販売等についての支援のほか、勉強会ではなく専門家が会社で直接指摘してほしいなどIT活用・促進についてのご意見。4つ目は、補助金を利用しているのかの有無を問わず、補助金等の情報提供は欲しいという意見でした。

次に、伝統産業については、漆器や竹千筋細工など、7業界に対しヒアリングしています。

「①受注等の現状」は、業界ごと、業界内でも様々で一律に括る事はできない。業績の良い事業者もあれば、悪い事業者もあるという実態です。「②後継者」の問題は、どこも深刻で、中には消滅寸前の技術もあるというご意見もありました。「③課題に感じていること」では、新商品は作っても売れる商品を作るのは難しいことと、マーケティングや営業力も必要とのご意見もありました。「④市に求めること」では、職人育成事業のクラフトマンサポート事業の継続、設備投資への補助金などを求める意見がありました。

続きまして、7ページをお願いします。「8『第3次静岡市ものづくり産業振興基本計画』の方針（案）」です。事務局では、社会経済情勢の変化、本市の産業構造、審議会の皆様の

ご意見や市内企業等のヒアリング結果等を踏まえ、また、関連する計画との整合性を図りながら総合的に検討し、6つの方針案を設定しました。このうち、第2次計画からの継続が3件、拡充して盛り込むものが2件、新規が1件です。

「9 6つの方針（案）の考え方及び関連する事業」です。この関連する事業は、今後追加する事業も含めて整理・精査していくため、第2次計画掲載事業を記載しました。「(1) 企業の誘致と留置の推進」は「継続」。8ページの「(2) 新市場・販路開拓に対する支援」と(3) 新製品・技術開発等に対する支援も「継続」。9ページの「(4) 中小企業の経営基盤・競争力の強化」は、AI・IoT等の第4次産業革命技術をはじめとする新技術等の導入による生産性向上という大きな枠組みで、その活用・検討を支援していく必要があると考え、「拡充」。「(5) 多様な産業人材の確保・育成」も、若者だけでなく、シニア人材や、30歳前後の転職者のUIJターン就職を含めて考えていくことで「拡充」。10ページの「(6) 伝統工芸技術の保存・継承」は、本市の誇りある伝統工芸技術を文化として残す施策が急務であると考え、伝統工芸技術に特化した方針を新たに盛り込むことを考えており、「新設」とします。

スケジュールに関しては、資料3の「スケジュール案」をご覧ください。今回の会議において方向性に関するご意見を聴取させていただき、今後、関係課との協議等により、第3次計画への掲載事業を検討していきます。その後、市の財政部局への予算要求を踏まえ、8月から9月頃に予定する第2回の審議会において、掲載事業へのご意見を聴取し、それを踏まえて、ものづくり基本計画の素案を策定します。策定にあたっては、第2次産業振興プラン後期計画の進捗を見て、整合性を確認しながら進めていきたいと考えています。来年1月頃に第3回目の審議会を予定しており、予算内示を踏まえた掲載事業を含めた計画素案に対するご意見をいただく予定です。その後、修正や調整を経て、2月頃に山内会長や鳥羽副会長から市に答申いただいた上で、市民の方からご意見を伺うパブリックコメントを実施し、年度末の完成を目指しています。

事務局からの説明は以上でございます。会長、よろしくお願い致します。

【山内会長】

ありがとうございました。前回の審議会で委員の皆様からいただいたご提案は、事務局でいくつかの категорияにまとめ、ただ今説明のあった「方向性（案）」に盛り込まれているということですが、現状の問題点がかなり浮き彫りになっているのではないかと思います。

ただ今の説明について、まずは私自身の考えを申し上げます。ご承知のとおり、ものづくり産業をはじめとして、経済社会情勢は大変なスピードで変化しているため、本年度3月、第3次基本計画が完成した瞬間に古い内容だと思われるものであっては困りますので、計画完成後2～3年先を見越して計画作りに取り組んでいきたいと考えております。

ものづくり産業全体を考えますと、国・県・市から様々な取組が出ておりますが、それらを含めて、一つは、AI・IoTについて、これから我々はどう捉えて、どう進めていくかとい

うこととなります。これについては、委員会でも、講演会・講習会などで勉強し、あれから1年ほど経っているのですが、またどんどん進化をしていると思っています。

AI・IoTの柱の一つは位置・方向などの画像認識で、これはセンサー・カメラなどの新しい技術、ハードで解決できる部分です。もう一つの柱はニューロン（神経細胞）を電子化・情報化で取り込むことで、この2つがロボットに入ってくれば、かなりのものが有効に使えるようになる。まだ今はその段階ではありませんが、2、3年後は相当、具体化しているのではないかと思います。これがAI・IoTの大きな課題の一つです。

もう一つの課題は、「資料1」6ページの7(1)③に記載されている「HPやネット販売等の環境整備」ということです。これは、ものづくり産業としては、大変な大きな問題点であり、産業革命が起こっているのはまさにこの部分であると思っています。今の電子・情報取引を、我々はユーザーとして非常に安易に利用していますが、逆に、生産者として、売り手側としてどのくらい使用しているかということを見ると、この進化し拡大していく状況は見過ごせないと思います。私自身、量産品の物を作っている会社におりましたが、「開発→生産→営業→販売」と、直線で流れる作業であったわけです。ところが、今の「プラットフォーム」というのは、コンピュータが中心にあり、その周辺に生産者や消費者が寄り添う円形となる図式ではないかと思います。これが、どんどん広がっていくと、我々の製造業・ものづくりにとって、この「プラットフォーム」技術は見過ごせないではないかということで、今から勉強しておく必要があると思います。これについては、作る側からの問題も沢山あるとご指摘いただいておりますが、世の中の大きな動きに伴い、生産者・消費者の両方が共存・共栄になるのではないかと思います。

もう一つは、先ほどの説明にも出ておりましたが、「人材不足の問題」です。これは、市や県ではなく、国レベルでの問題だと思います。ご承知のとおり、大震災により多くの人材が必要とされ、今、オリンピックの準備により多くの人材が取られています。また、西日本の豪雨で被害を受けている最中で、こちらも国をあげての対策をするとのことで、かなりの資金を投じています。そうすると、我々のものづくりの人材不足に跳ね返ってくるという大きな問題点がありますので、こちらも議論していただけたらと思います。

また、経済局が主体で、「産業クラスター」について、今、審議をいただいております。静岡の恵まれた自然や清水港の造船技術などを活かし、環境・健康・食品関係の産業を発展、活性化させようという明るい話も出始めていますので、これらも含めて議論いただけたらと思います。

私からの話は以上でございます。それでは、先ほど事務局から説明いただきました項目について、ご意見を拝聴したいと思っています。よろしくお願い致します。

【上妻委員】

ものづくりの産業振興という中で、現時点で一番気に掛かるのは、やはり人手不足です。高齢者や女性の多面性な活用で乗り越えるということもありますが、一方、国の施策の中で、

外国人の導入が声高に言われており、この静岡では、国の施策に応じながら受け入れていくのか。反対はできないとは思いますが、これは、将来的に非常に複雑な問題を起こす可能性があると思います。

今、一番生産性が落ちているのはサービス産業であり、製造業ではないので、ものづくりと少し離れるのかもしれませんが、そこで外国人を雇用すると、給与も上がらなくなるし、進歩がなくなる。それを阻止するには生産性の向上しかありません。それを進めるものとして、AIやIoT、RPAの導入などがメインになっている。一番気になるのは、外国人労働力の導入について静岡の実態はどうなっているのか。どういった考えで受け入れていくのかというところだと思います。非常に難しい問題であるのですが、いかがでしょうか。

(事務局：桐野工業振興係長)

はい。先ほどの国の「経済財政運営と改革の基本方針2018」の中で、「新たな外国人材の受け入れ」が掲げられています。中小企業や小規模事業者をはじめとして人材不足の深刻化の対応ということですが、国の方では、在留資格であったり、入国管理、難民認定であったりと法整備が主に掲げられているのかなと感じています。

こういった国の制度の変化や流の中で、静岡市においても外国人の方が住みやすい環境や就労しやすい環境が整備されれば、当然これは拒むことではありませんが、現段階で静岡市として、明確に外国人の受入を拒否するとか、静岡市独自の方策として外国人の受入に対して新たな制度を作るといったようなことは考えてはいません。我々としては、先ほど出ましたが、女性の雇用ですとか、知識や能力のある企業OBの活用、30歳前後のUIJターン、このような方々の労働力を人手不足の解消に繋げたいと考えているところです。

【上妻委員】

外国人を採用する方が、給与も安いですし、人手ということで安易に捉えられるとなると、そちらの方向に流れる危険性が非常にあります。その流れを実質的に阻止する方向に動くことを考えなければならない。人を入れなくてもできること早めに進めるしかない。その点では、AIやIoTをスピーディーに具体的に導入する方法は何かということがキーになります。ぜひ、その観点からもお願いしたいと思っています。

【松岡委員】

前から理系の大学などと申し上げておりましたが、もうこの状況では間に合わないと思っています。今、取引でよく中国に行くのですが、そこで、アリババですとか新しい販売方法を見聞きし、自分の携帯で使用してみると、日本のものでは機能に制限があるのですが、国内の物流などがリンクされていて、全ての決済ができる。銀行の口座から携帯のカメラから全ての情報がリンクしています。日本でも5年以内にこのような情報社会になってくると思います。例えば、Instagramで飲み物の写真をアップすると、その飲み物に関する全て

の情報が集積されて、購買意欲に繋がる広告として個人の携帯に通知されるようになっていきます。自分が起こした行動によって関連付けされた必要な情報だけが、個々に必要な人に伝えられている、ピンポイントで購買促進を行っているということです。車の写真を撮った次の瞬間、撮った写真の試乗の案内が届くといった販売戦略とつながっているもっと凄い例もあります。アリババとは、ネット上に行われている万年の展示会場という考え方だそうです。その展示会場に24時間何時でもアクセスできる。そういった時にこれからの売り方や作り方、部品の調達の仕方など絶対的に変わってくると思いました。

そこで感じたのは「人材」に関して、それらの高度な機能に適応できる人材を育てることです。これはお金をかけずにできるのではないかと思っています。それは、静岡市独自の教育制度を作って、中学までの義務教育期間に徹底的に勉強させる。そしていろいろなものに触れさせることです。とにかく徹底的に静岡は勉強させるという方針を掲げて実行することが、世界で戦っていくには、いちばん早くて効果的なのではないかと思っています。

人材不足と言われておりますが、静岡にいれば、東京にある有名進学私立高校と同等の教育が受けられるという噂がたてば、転勤族が定住してくれると思います。小学生のお子様を持つ転勤希望地としては、自然もあるしスポーツもあり、静岡は非常に人気があるそうですが、中学に上がると東京に帰ってしまう。そのいちばんの理由は、静岡の高校では、東京のような教育が受けられないからだそうです。静岡からより良い人材を優良大学に送り込むことができれば、転勤せずに、住み続けてくれる人が増えると思います。人口増加につながり、人手不足を打破できるのではないかと思います。子供たちの教育を底上げしていくことが何よりも必要になってくるのではないのでしょうか。

私が中国で工場を持っていた頃の子供たちが、今22~30歳くらいで活躍しているのですが、当時、工場の従業員が皆、17時になると「早く帰って子供の勉強を見ないと、宿題が終わらない」と言っておりました。そのくらいに小学生の頃から勉強をさせていたことを知っているのです。日本が世界に立ち向かうようになるには、勉強させることです。国が力を入れないのであれば、静岡市独自でやったらいいと思います。幼い頃からいろいろなことにチャレンジさせて高度な人材を育てることが、世の中が変わっていくと見据えた時に一つの戦略としてあれば注目されるのではないのでしょうか。

【山内会長】

はい。ありがとうございました。前半と後半と2つあったと思いますが、後半の「人材」に対しては市としては、どんなふうに捉えているのでしょうか。ものづくり産業からは少し範囲が広がったかと思いますが……

(事務局 桐野工業振興係長)

我々のところというより、教育全般の話かなとは思いますが。今、静岡市では、高等教育のあり方を一年間かけて検討しているところです。ものづくりと教育を結びつけた事業とい

うのは、小さい頃からものづくり体験などに触れていただき、将来的にもものづくり産業に興味を持ち、従事していただくような施策はしていますが、有能な人材育成のための教育や静岡市からの人材を出て行かせない、静岡に人が集まってもらえるような施策の手立てについては、私の方から回答が難しい状況です。

【山内会長】

前半の「プラットフォーム」、電子取引の話ですが、アメリカでは **Yahoo** がなくなるかもしれないというくらい、ものすごく激しい競争になってきています。アリババは中国のマーケットに合うように作られて、アリババをアメリカに持っていくと使いものにならないくらいに違う。またアメリカの会社が中国に進出しようとするほとんどが失敗します。国の商習慣が違うことをアリババはうまく捉えていて、母数が圧倒的に大きいので、シェアが広がるということです。生産者の立場から、どう活用していくかはまだまだ問題点が多くあり、先に勉強した方が勝ちではないかと個人的には思っております。そのためには、松岡さんがおっしゃったように、専門家が必要となると思います。これからの方は子供の頃からコンピュータに触れています。先ほど鳥羽さんと話したのですが、伝統産業や工芸品は作るのも大変だが、売るのももっと大変だと思いますが、絶やしてはいけない産業です。一人でも先端のものを勉強していただき、使えるかもしれないと思うものができれば、早く取り掛かった方が勝ちだと思います。この会でも、製造側から見た「プラットフォーム」の活用について勉強会などを開催した方が良いのではと思っています。

【山下委員】

国の方針、県の方針がある中で、「静岡らしさ」を出すためには、独自のものを提案していかなければならないと思います。新産業開発機構の総会の講演の中で、浜松に比べて、静岡は危機感が足りないとの指摘がありました。浜松は自動車産業の傘型で、それが **EV** に変わったことで全くエンジンの中身が変わってしまい、中小企業を含めて生き残っていくために動いているのに対して、静岡の中心は、電気機械製造業で、大転換が起こらない業種で、危機感が足りないというお話をされました。それを受けた商工会議所での集まりでは、静岡らしさをどうしていくのかという議題に対して、静岡の中小企業には素晴らしい技術があるのに気づいていないだけ、それに光を当てて、自信を持ってもらうことだという意見もあり、その辺が焦点になるのではと思いました。また、次の日の研究会では、プリウスのマフラーを作っている会社が、温室の炭酸ガス濃度を上げてイチゴの収量を増やす装置を作ったというお話があり、イチゴだけではなく、いろいろな植物が炭酸ガスで光合成をしていますので、将来、自動車産業から乗り換えることも考えられる。そんな例もあり、なるほどと感心した次第です。そう意味で静岡ものづくり産業に何ができるのかということをやっているかないと具体化しないのではないかと思います。

もう一つ、先ほど転勤族の話が出ましたが、ものづくり産業とは違うかもしれませんが、人材の環境を整えることも方針の一つだとしたら、現在、新幹線ひかりは1時間に1本しか通っていませんが、それが2本になったら、転勤族や通勤族は助かるのではないのでしょうか。三島と同じ位の時間で東京と静岡を行き来できる。これはかなり環境が変わってくるのではないのでしょうか。JRが認めるかどうかは厳しいですが、良いタイミングで大井川の水の問題がありますので、トレードなり、うまく交渉してみても、個人的には思っています。

【山内会長】

ありがとうございました。自動車産業はとても頑張っていると思います。新しい技術として、自動運転という大きなテーマがあり、また、それに必要な技術やAIの活用など、どんどん伸びていくのではないかと思います。

また、前回松岡さんが、IoTを勉強していて、工作機械を沢山持っているのですが、コンピュータのソフトがそれぞれ違うので、うまく使用できないのとお話されました。メーカーによりコンピュータが違うので、それをIoTにするといっても、うまくつながらないのが現実です。IoTというのは、インターネットを使って情報を集めるということですが、アメリカの最先端の会社、例えば世界最大の電気会社GEでは、それをプラットフォームに繋いでしまおうという技術研究が行われております。アメリカでは、大元になるソフトのその研究が盛んに行われている中、日本は全然やっていない。基本ができていて、そこに応用するアプリや漫画・ゲームなどは得意ですが……。なので、残念ながら、日本の産業というのは、結局、部品屋になるしかないのかと感じます。

また、「ま・あ・る」もそうですが、私も小学生を集めて、毎月、ものづくりをして7年目になります。なかなか良い子が出てきて、もう高校生になります。「ま・あ・る」が素晴らしいのは、リーダーを育てていることですが、この点について、井野委員、お願いします。

【井野委員】

「ま・あ・る」という施設で働いている井野と申します。この施設はちょうど5年経ち、当初、小学生だった子供たちが、高校2年生位になっております。「ま・あ・る」にある子供バザールというお店やさんごっこの中で、子ども店長として、一つのお店を切り盛りしてきた子供たちが、今高校生になり、今度は、小学生を支える立場になっています。

様々な学校の様々な学年の子供たちが、この「ま・あ・る」で一緒にお店をやることを通して学ぶことで自信にも繋がり、自信を得たことで、中学・高校と進んだ時に、その経験が活きて、集中力が高まったり、今度は教える立場として戻ってくれています。5年経ち、その成長が目に見える形で出てきています。また、さらに5年経ちますと、その子供たちが社会人になりますので、静岡に就職していただけるとすごくいいなと思っています。そして、その就職先から、「ま・あ・る」に戻ってきて、ものづくりを子供に提供する側になってくれるといいなと日々思い、小学生を中心に体験活動をしています。

【鳥羽副会長】

いろいろお話をお伺いしておりますと、世の中がどんどんスピードを上げて変わっている中で、伝統産業としては、それに合わせて変わっていった方がいいのかどうかを、真剣に考察した方がいいのかなと思います。このスピードに合わせて、変わって良い場所やことはあると思いますが、そこまでも変わらないでいる現状があるように感じます。先ほども「プラットフォーム」を使って売っていくというお話がありましたが、実際、伝統産業の世界では、リーマンショックの前に、問屋さんが廃業して、販売網が崩れ、作る側の生産者が、売ることもやっていたのがそのままずっと続いている。全部やることは無理なのに、いまだに全部やっている気がします。それは、「プラットフォーム」を作る側から上手く使って販売の方に持っていくことをすれば、解決するのではないかと思います。

伝統産業という、この会でも別扱いのような形になっていますが、伝統産業を一般的なものづくりに融合させるところは融合させていく。例えば、伝統技術は保存したり、継承したりする必要はあるかと思いますが、技術を使って作りあげる物は、時代に合わせて変わっていいはずで。素材なども変わっていいと思います。漆器の場合、素材として漆は使わなければなりません、漆の技術を使って作りあげる物は、昔ながらのお碗でなくてもいいし、売り方も変えていいと思います。

伝統産業の部門では、保存や継承といった言葉を使っていますが、高度成長期から支えてきてくれた 70 代後半から 80 代前半の方々にとっては、保存・継承を考えてくれるのは嬉しいことで、市には絶対にやってもらいたいと思いますが、若い世代の人たちからは、保存ばかりしているが、延長戦のような政策だけでいいのかという意見も出ています。今の市の政策は、20~40 年前に冒険として始めたものがうまくいってこれまで続いてきているのですが、そろそろ延長線上ではない、路線の違う冒険的な新たな政策を取り入れて若い世代に刺激を与えることで、伝統産業に新たな発展があったらいいなと思います。伝統産業が孤立しないように、今の時代と繋げて、将来に向かって発展できたらと感じました。

【望月（有）委員】

伝統産業もしかりなのですが、小さい企業は、変革についていけない現状があると思います。人材育成をしなければと言われていても、自社でどうしてやっていいのかわからない。わからないことだらけになってしまっているのが、実体なのではないでしょうか。

自社に合った政策をきちんと伝えられる、コーディネートできる人材が必要なのではと感じました。資金も人材も限られている小さな企業では、段階を置いていかないと、大それたことはうちにはできないと遠慮してしまい、一步が踏み出せなくなってしまうので、まずはここからやりましょうといったようなステップが欲しい。今の世の中情報があふれすぎているので、本当に大切なもの・情報が何かわかるように、コーディネーターが欲しい。OB でもいいですし、勉強会ではなく、自社に合ったものを会社に来て助言してもらいたいとい

う意見はまさに、問題になっているところなのかなと思います。

【山内会長】

10 ページ「(6) 伝統工芸技術の保存・継承」の関連事業に「伝統工芸品等の展示販売の充実化ほか」とありますが、ここをもう一步踏み出せないのかなと。つまり、インターネットやHPを上手く使ったりと、受け身ということだけではなく、「攻め」をやってみてはどうでしょうか。断定できませんが、お金もそれほどかからないのではないかなと思いますが、いかがでしょうか。

それからプラットフォームを活用するのは、とても良いことだと思いますが、これは出した瞬間に国内の競争となり、怖さもあるのかなと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局：山本地場産業担当課長)

ご意見ありがとうございます。今回、初めて「(6) 伝統工芸技術の保存と継承」という項目を記載させていただきました。補足しますと、まず、新しい方針を載せようとしたのは、前回、平成27年度の作成時と比べて、伝統工芸業界の高齢化が進んでいます。業界によっては一人しかいないという所もあります。また、漆器の中でも様々な塗り方があって、その技術が継承されないまま途絶えてしまうという恐れがあります。そういう分野を保存していきたいという思いです。全体を一斉に押していくということではなく、メリハリをつけた支援をしていきたい。その中で、高齢化や、業界がなくなりそうな部分については、今回、項目出しをして保護していきたいと考えています。

会長がおっしゃいましたように、戦略的に進めていく業界、例えば、竹千筋細工などは、クラフトマンサポート事業によりまして、ベテラン・中堅・若手とある程度数が揃ってきたので、これらは、戦略的に売る所を押していかなければならない。こうした分野については、前半の「新規市場の開拓」の項目などの中で考えてきたいと思っています。

【小澤委員】

静岡商工会議所で、経営支援課という所におります小澤と申します。

先ほど望月委員がおっしゃったことに同感で、最近は生産性向上やIT化など、国も県も沢山の政策を出して来ていて、市も先端設備の計画を出して、認定を受けると固定資産税がゼロになるという政策をスタートさせており、これを機に、生産性向上やIT化を進めようとする意識の高い企業と、そうでない企業と二極化してしまっていると感じています。我々の役割としては、意識の低い企業様への意識付けも大きな課題なのではと思っています。

それから、「人材育成と伝統工芸の継承」という部分ですが、市内の家具屋さんの商品開発などの支援に携わってしまっていて、そこの社長様にお話を伺う機会があり、その社長は、若手が技術を学ぶ「テクノカレッジ」で、長年、木工の先生として教えており、生徒さんたちの多くは静岡市内に就職してくれている実績もあるのですが、この度、その家具の製造コー

スの廃止が決定したそうで、社長も非常に危機感を感じているとのこと。先ほどのヒアリング結果の中で、消滅寸前の技術もあるというご説明があったのですが、社長のお話ですと、若者の中には、こつこつとものづくりを楽しんでいる人もいるとおっしゃっています。ボランティアでも教えていかないと、技術が途絶えてしまい、業界が終わってしまう危機感があるとのこと。副会長からもお話がありましたが、市内には魅力的なデザイナーさんは沢山おられますので、そういう方とコラボしながらものづくりを学ぶ場所を整えてあげれば、新しい形で技術を繋いでくれる若者は、きっといると思います。どの業界も人手不足と言われていますが、是非、伝統工芸の分野については、手厚い支援をしていただきたいと思っています。

【杉山委員】

特産工業協会の杉山と申します。伝統産業に携わっていますが、若手の「駿河クリエイティブ」という団体がありまして、そこの人たちから話を聞くと、意外と売れる所はあると。ただ、70代～80代の年配の方、職人として長年やってきた方たちは、売れる所がない、売れないとよく話を聞きます。

年配の方は技術の継承を若手に注ぐことに特化し、若い方は新しい世界でのマーケット市場をどんどん活用していただき、静岡の伝統産業を繋げてほしいと思います。道は途絶えた訳ではないと思っています。伝統技術もお碗だけでなく、例えばスピーカーに漆を塗って新しい商品を作ったりと、伝統的なものだけでなく、どんどん新しいことにチャレンジしていける場所を提供してあげたらいいのではと思います。

【山内会長】

ありがとうございます。先輩から後輩に技術がしっかり繋がっている時は残っているのですが、コンピュータやITが入ってくると、先輩方はわからなくなってしまうわけです。ところが、今の4～5歳からコンピュータに慣れている子たちが成長してくると、IT技術を使ったものというのは、革命が起こる可能性があるのではと感じました。本当の技能を伝えることと、情報をもって伝えることについて、これから悩みが出るのかなと思います。私も月に1回、2時間子供たちにもものづくりとしておもちゃを作らせておりますが、誰かがそういうことをしなければならぬのかなと感じています。

私もコンピュータなど、様々な勉強をしておりますが、やれば、少しは世の中の動きが見えてきて、楽しいです。アメリカのスタンフォード大学では、学生が在学中に会社を起し、それが世界に通用する会社となっている。何故、あれほど優秀な人材を輩出できるのか。日本の教育と何が違うのかというと、日本の詰込み教育との差ではないでしょうか。教育の仕方を相当変えていかないと、この新しい時代を切り抜けられないと思います。そういう人材がぜひ静岡にほしいと感じています。

それでは、審議をしていただきましたので、これから説明いただいたスケジュールに従い

8月のタイミングでまたご案内申し上げます。もう少し肉付けし内容をまとめていきたいと思ひます。事務局の方、大変かと思ひますが何卒よろしくお願ひします。
それでは、そちらにお返しいたします。

(事務局：青嶋参与兼産業振興課長)

委員の皆様、長時間のご議論ありがとうございました。私も久しぶりに会議に出席させていただいたのですが、つくづく経済は難しいなと感じました。皆さま、十人十色以上のお考えを持っておられ、行政も本来であれば、色々なものにチャレンジしなければならないと思ひているのですが、私どもは短期間で成果を求められることも多く現状としてございます。特に経済は行政が主役ではなく、後方支援と言ひますか、共に考える立場であると思ひております。民間企業の取組を、是非、一緒に考えられるような環境をできる限り作っていきたくて思ひております。色々ご指導の程よろしくお願ひ致します。

先ほど会長からもご挨拶ございましたが、次回、8月下旬頃に第2回の会議を予定したいと思ひております。日程につきましては、再度ご相談させていただきます。よろしくお願ひ致します。

それでは、以上をもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。長時間ありがとうございました。

本会議録は、平成30年7月18日開催の「第21回静岡市ものづくり産業振興審議会」の会議内容と同一であることを証する。

署名人 会 長

委 員